

魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 田中 勤子

所属: 広島市立己斐上中学校

記録日: 2021年 2月 10日

キーワード: 不登校 コミュニケーション

【対象生徒の情報】

- ・学年 中学校 1 年生
- ・障害と困難の内容
不安・緊張が高く、教室に入れない状態

【活動目的】

- ・当初のねらい
 - ① 安心を広げる。
 - ② 学習に向かう気持ちを支える。
 - ③ 得意を活かして楽しみを広げる。

・実施期間

2020年4月～2021年1月

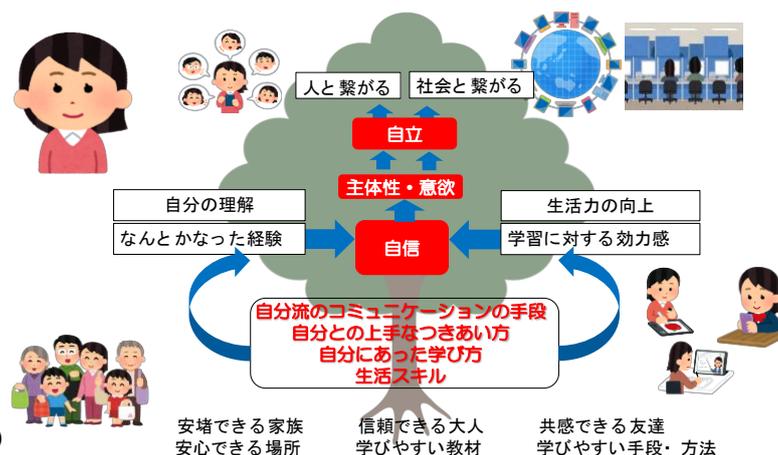
・実施者 田中勤子 土脇恭平 早瀬智子

・実施者と対象生徒の関係

田中 勤子 (専任特別支援教育コーディネーター)

土脇 恭平 (特別支援教育コーディネーター)

早瀬 智子 (担任)



【活動内容と対象生徒の変化】

○対象生徒の事前の状況

- ・ 通常の学級に在籍
- ・ 緊張や不安が強く、6年生後期には身体面に症状が現れるようになった (嘔吐、食欲不振)。初めてのことが苦手で、人や場所、活動内容に慣れるまで時間がかかる。他者の視線が自分に向くと緊張が高まる様子が見られ、思うようにコミュニケーションが取れない。

(家庭では)

- ・ 両親が共働きのため、日中は祖母と過ごしている。学校の送迎もほとんど祖母が行っている。
- ・ 「YouTube」を見たり、ゲームをしたりして過ごすことが多い。

(学習について)

- ・ 学習理解の難しさは感じられないが、教室で授業を受けている時間が限られており、未学習の部分はかなり多くある。
- ・ 小学校の時は、友達に宿題を持って帰ってもらい、友達の家までそれを取りに行く。そして、母親と一緒に宿題に取り組み、次の日に学校に持って行っていた。親子で自学を続けてきている。
- ・ 漢字を書くのは好きで、抵抗なくできる。文章の読解や作文は苦手である。四則計算については、桁数の多い割り算は苦手、分数・小数にも苦手意識があり、取りかかりに時間がかかる。

(好きなこと)

- ・ イラストを描くのが得意で、美術部に所属している。「ポケモン」や「鬼滅の刃」のキャラクターを好んで描いている。
- ・ 音楽が好きで、特にリコーダー演奏には自信を持っている。

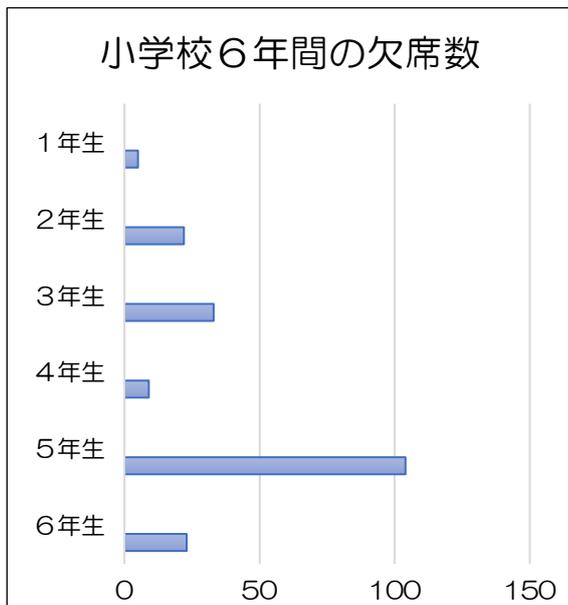
(友人関係)

・ 友達と関わりたい気持ちは強い。仲の良い友達が数人いる。家族同士のつきあいがある友達もいて、家を行き来して遊んでいた時期もあった。休校中も何度か行き来があり、親しい友達とは笑いあったり、対等に会話したりできる。グループになると聞き役で、質問に対して頷いたり単語で返したりしている。

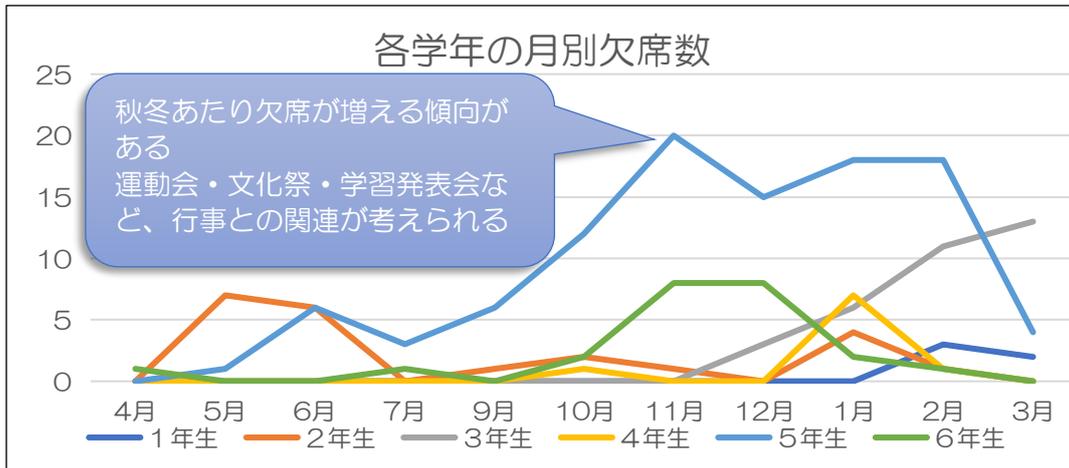
(中学校入学に向けて)

- ・ 中学校入学前から、小学校の担任やコーディネーターと連携を取りながら、保護者面談を行ったり、対象生徒が校内を見学したりするなど、小中のスムーズな移行を目指して取り組んできた。
- ・ 中学校入学後は「ふれあいひろば(校内に設置された不登校のための教育相談室)」へ登校。制服を着ると緊張が高まるので、私服のまま登校している。

(小学校の登校状況)



1年生	祖母が正門まで一緒に登校し、教室で学習した。欠席した次の日は登校をしぶり、担任が家まで迎えにきていた。
2年生	社会見学は参加を拒否した。
3年生	冬休み明け、教室に入らず保健室登校していた。2月、祖母と一緒に登校した後、祖母に一旦家に帰ってもらう約束をしていたため、不安が高まり登校をしぶった。
4年生	保健室登校から、秋頃、一旦教室に入る。席替えが不安で12月再び保健室登校(夕方)になった。
5年生	「ふれあいひろば」に登校する。秋冬は外出することができなかった。
6年生	「ふれあいひろば」に登校する。11月調子が悪くなり車から降りられない状態が続いた。



☆対象生徒の小学校時の登校状況からの考察

- ・ 行事に参加したいという思いは強く、練習を頑張っていた様子であるが、当日、不安や緊張が強く参加できなかった経験から、行事の後に登校意欲が下がってしまったようである。「やりたい気持ち」と「できない気持ち」の葛藤に苦しんでいた様子が見られる。
- ・ 3年生の冬休み明けのエピソードから、分離不安の高さがうかがわれる。大人から言われたことに対して、その場で強く拒否することなく、期待に応えようとするが、本人が納得していたわけではなかったため、「学校に行かない」という行為で、不安から逃避していたのではないかと考えた。



○活動の具体的内容

安心を広げるために	「Zoom」で繋がる 	家と学校を「Zoom」でつなぎ、会話をする。「ふれあいひろば」への登校か、「Zoom」でのミーティングかを対象生徒が自分で選択して決める。
	「By Talk for School」で繋がる 	対象生徒・担任・コーディネーターのグループを作り、緊張を伴わずにコミュニケーションを取る手段として活用する。その日の予定を自分で決めて伝える手段としても活用する。
	「OneNote」で繋がる 	対象生徒と担任、コーディネーターがノートブックを共有し、次週の予定などの学校の情報を伝えたり、ノートブック上でライブでやりとりする。
	教室の様子を把握する 	教室と「ふれあいひろば」を「Zoom」でつなぎ、対象生徒が教室の授業の内容やクラスの生徒の様子を把握できるようにする。
	友達と繋がる  	「By Talk for School」で同じクラスの仲の良い友達ともグループを作る。美術部の仲間からのメッセージ動画を送り、美術部の仲間との繋がりを作る。
	アバターとして会話する 	「Pepper」に色々なセリフを入力して楽しみながら、自分の言いたいことを代わりに喋ってくれる自分のアバターとして「Pepper」を活用できるようにしていく。

学習に向かう気持ちを支えるために	学習空白を埋める 	対象生徒のペースで、学習空白の部分の学び直しを行う。家庭で休校中から取り組み始めている。小学校の算数の単元を中心に取り組む。
	学習課題を絞る 	「ホントにわかる」シリーズのテキストに家庭で取り組む。取り組んだものは登校時に持参し、教科担任が評価、コメントを書き込む。学習の進捗の情報を伝え、それに合わせて取り組むことになった。
	暗記を助ける 	漢字テストを受けようする意思が見られたので、テスト範囲ごとに漢字の暗記カードを自分で作成して覚える。
	英単語を音と一緒に覚える 	英単語は、英語科の教科担任が「BitsBoard」に音声入りの単語カードを作って、対象生徒の iPad に送る。好きなゲームの形を選び、楽しみながら繰り返し取り組む。
	手順を理解する 	美術や家庭科の作品づくりの際、作業過程を動画に撮り、事前に見て手順を理解させ、作業に対する不安を軽減する。
得意を活かして楽しみを広げるために	描いたイラストを友達や家族と共有する 	出来上がったイラストの作品をアプリ「みてね」で家族や友達と共有する。コメントを書き込んでもらったり、コメントへの返事を返したりしながら、やりとりを楽しむ。
	手描きイラストに着色して楽しむ 	「ibisPaint」を使い、描画を楽しむ。最初は、紙やホワイトボードに手描きしたイラストに、自由に着色するところから始める。他のユーザーの作品も見て楽しむ。

○対象生徒の事後の変化

①安心を広げるために

・「Zoom」で繋がる

コロナ対策による臨時休校中を利用し、対象生徒が、朝起きた時の自分の体や気持ちのコンディションと相談して、「ふれあいひろば」に登校にするか、「Zoom」でミーティングを行うかを決めた。対象生徒は、新しく出会った人に慣れ、緊張を伴わずにコミュニケーションをとるのに時間がかかり、顔を合わせない日が続くと、次に会った時にリセットされた状態になり、緊張が再び高まる傾向が見られるが、学校で直接会うか、学校に来られなくても「Zoom」で顔を合わせることで、対象生徒の緊張も次第に低くなった。

「Zoom」は職員室で繋ぐようにし、担任だけでなく、色々な教員が顔を覗かせ、対象生徒と関わりを持つようにした。時には音楽の教科担任とはアルトリコーダーの練習をすることもあった。

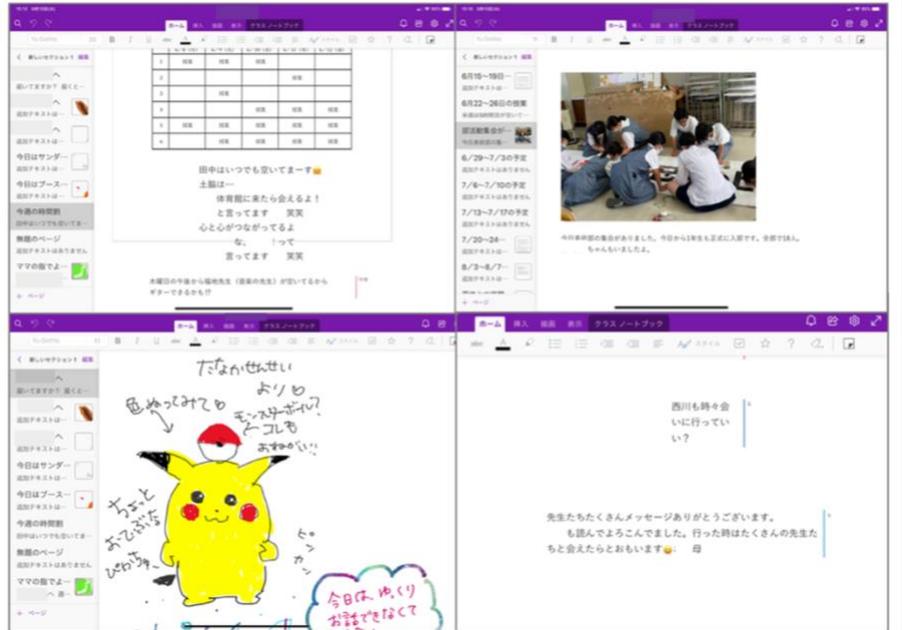
対象生徒は画面に映るのが恥ずかしく、声のみの参加になっているが、会話することにはだんだん抵抗がなくなった。また、チャットには抵抗なく書き込むことができた。

祖母が不在の時には、対象生徒が一人で「Zoom」を繋ぎ、会話しながら、無事にミーティングを終えることができた。



・「OneNote」で繋がる

6月8日より、「OneNote」のクラスノートブックを共有し、学校の情報を共有する場にした。担任が次週の時間割を伝えたり、教室やクラブ活動の様子を載せたりして対象生徒に伝えた。画面を共有しながら同時に作業ができるので、画面上で一緒にイラストを描いて楽しむこともあった。また、クラブ活動の様子の把握が所属感を持たせることに繋がった。



・「By Talk for School」で繋がる

6月終わりから「By Talk for School」で、グループを作り、対象生徒と担任とコーディネーターが繋がることができた。それまでは、祖母からその日の予定の連絡をいただいていたが、メールのやりとりができるようになり、自分で予定を伝えてくるようになった。対象生徒は文章を考えるのが得意ではないため、スタンプを使って意思表示できるのはとても楽しかったようで、スタンプを上手に使いながら、一人でやりとりすることができた。



・教室の様子を把握する

教室の授業の様子を録画し、対象生徒が見れるように準備した。対象生徒は、色々な教科担任の授業に興味があったようで、登校時に「ふれあいひろば」で一緒に録画した動画を見た。

また、「ふれあいひろば」と教室を「Zoom」でつなぎ、教室の生徒の様子を覗いて見た。iPadの位置を教室の後ろに置いて授業を受けているような角度にしたり、時には教卓に置いて前から座っている生徒の顔が見えるような角度にしたりして、教室の雰囲気が伝わるようにした。対象生徒がライブで繋がりながら見ることに抵抗があるかと危惧したが、自分のiPadの音声やカメラを消すことで安心して繋いで見る事ができた。



自分の教室をiPadの画面で見て興味を持ち、その後、他の生徒がいない時間に教室に入ってみることもできた。

・「Pepper」をコミュニケーションのツールとして

「ふれあいひろば」に登校した時に、まだ顔を合わせると恥ずかしさや緊張があり、自分の思うことを十分に話すことができない様子が続いていたため、登校時のコミュニケーションに工夫が必要だと感じた。

そこで、Pepperを介して、会話をしてみようかと考えた。初めはPepperに「鬼滅の刃」のキャラクターのセリフをプログラムして喋らせるなどして楽しみ、次第に自分の伝えたいことをPepperに喋らせ始めた。

そして、11月、「ふれあいひろば」に登校し始めた新しい仲間とのコミュニケーションのためにPepperが活躍した。登校時間がずれている二人が、お互いに伝えたいことをPepperにプログラムして帰る。Pepperをアバターにしての会話は、実際の会話に近く、直接話す前の一つのステップになった。何を伝えるか、じっくり考えてプログラムし、代わりにペッパーに伝えてもらうことができるので、その場で即時に考えて言葉を交わすより、ハードルが低く、自分の気持ちを抵抗なく新しい仲間へ届けることができた。Pepperをアバターにした会話が続いた後、二人は教室で対面し会話することができた。



② 学習に向かう気持ちを支えるために

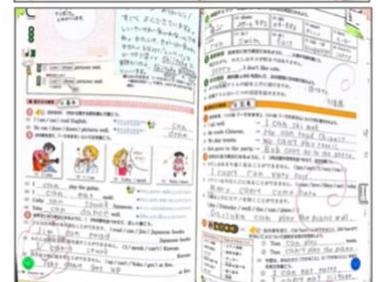
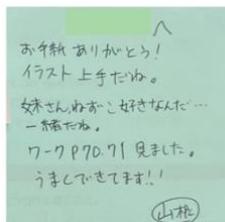
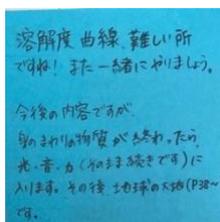
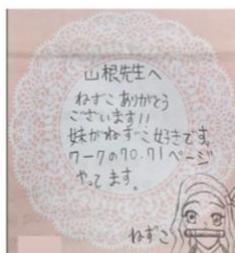
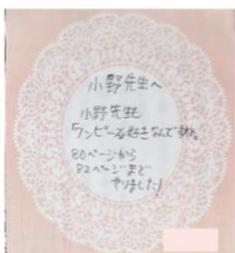
・課題のやりとりが定着する

どのような形で学習を進めるか、保護者と何度も相談しながら、方向性を決めて本人に提案していった。

- ・ 数学・社会・理科・英語は「ホントにわかる」シリーズのテキストに取り組んでいく。
- ・ 国語は、学校の副教材のワークに取り組む。漢字の二百字帳を自分のペースで提出する。
- ・ 授業で配布された学習プリントやワークの中で取り組めるものについては提出していく。
- ・ 実技教科については、教科担任から説明を聞き、「ふれあいひろば」や家庭で取り組んでいく。
(家庭科の刺し子・美術の点描画・アルトリコーダーの練習など)
- ・ 英語は単語ノートを作り、教科書に出る単語の意味を調べ、「BitsBoard」で単語を覚える。

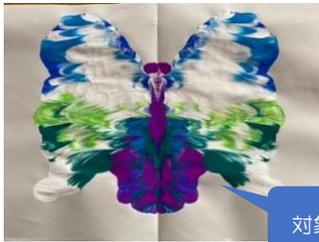
毎晩、母親と一緒に、2教科ずつ学習時間を決めて取り組み、それをジッパー付きの袋に入れ持参している。各教科担がそれを見てコメントを書き、対象生徒の頑張りや評価するようにした。毎日、学習したものを学校に持って行って見せることが登校の目的の一つになっている。

現在は、日中母親が仕事で不在の時に、一人で学習に向かうことも定着してきている。



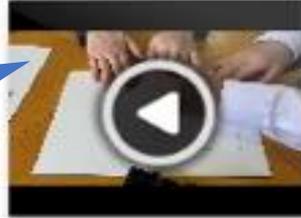
・動画の視聴でイメージを持つ

「ふれあいひろば」で一緒に美術の作品を作ろうと提案したが、初めてのことに取り組むことが不安で、車から降りられなかった。そこで、制作過程を動画に撮り、対象生徒に見せ、イメージを持たせた。「ふれあいひろば」で一緒に制作することは難しかったが、家庭で動画を見ながら制作し、教科担任に提出することができた。



対象生徒が制作した「デカルコマニー」の作品

制作過程を動画に撮り、対象生徒にメールで送った



③ 得意を活かして楽しみを広げるために

・iPadで描画を楽しむ

「By Talk for School」でメールのやり取りを始めると、「iPadで絵を描きました」と、メールにイラストを添付して送ってくるようになった。家族にも描いたイラストを送って、コメントをもらい、イラストを描く楽しみが膨らんでいった。

そして、10月に行われた文化祭では、美術部の作品展示に参加することができた。今まで、小さなイラストしか描いたことがなかったが、四つ切り画用紙に堂々とイラストを描き、展示することができた。



文化祭に作品を出品

・イラストとコメントで仲間と繋がる

「ふれあいひろば」に登校した時、部屋に置いてあるホワイトボードにもイラストをたくさん描いて楽しむようになった。対象生徒が描いたイラストの横に「ふれあいひろば」に登校した仲間がコメントを書き、生徒同志のやりとりが始まった。

対象生徒が登校時、車から降りられない時に

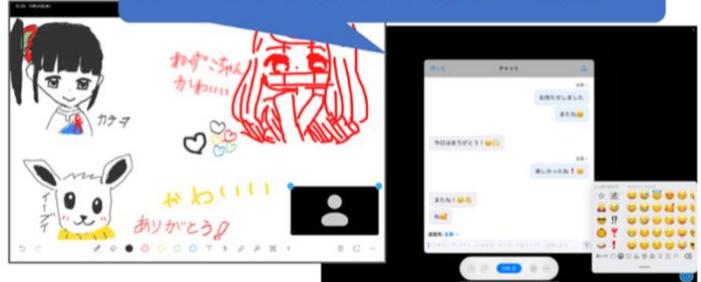


ふれあいひろばの中と車の中をZoomで繋ぐ



ホワイトボード上でのやりとり

ホワイトボードを画面共有 最後はチャットで会話する

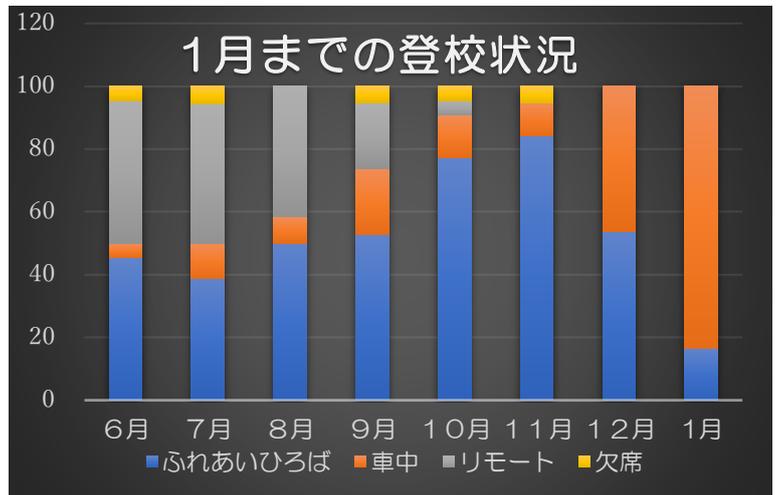


は、「ふれあいひろば」と車内を「Zoom」で繋ぎ、生徒同士がホワイトボードを画面共有しながら、同時に同じ画面でイラストを描いた。それぞれが描いたイラストに色を塗ったり、短いコメントを描いたりしながら、お互いの距離を縮めた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・ 登校が安定する

対象生徒の気持ちに任せ、「Zoom」で繋がるか、「ふれあいひろば」に登校するかを選択させてきたが、「ふれあいひろば」に登校するのを選ぶ日が増え、11月以降は、毎日登校してきている。小学校時は、秋冬に欠席が増えていたが、今年度は秋冬も毎日登校できている。12月より、車から降りられず車中で過ごす日は増えているが、冬は家の外に出ることが難しい状況が見られていた対象生徒にとっては、毎日躊躇することなくスムーズに支度ができ、車に乗り込み登校できていることに、昨年までの行動からの変化が見られる。



・ 安心の膨らみが見られる

「学校へ行く前はドキドキしたけど行ったら楽しかった」

「一回してみたら大丈夫だった」

そのような言葉が対象生徒から聞かれるようになった。やってみたら大丈夫だったという経験が少しずつではあるが積み重なってきており、不安や緊張と葛藤しながらも、新しいことに挑戦してみようという気持ちにつながっていると感じる。

祖母からいただいたメールより

先日、ドキドキして登校したのに、 が長い時間先生と過ごして、待っている車になかなか帰ってこなかったんです。その時、 が も学校へ行く前はドキドキしたけど行ったら楽しかったから、 も楽しいんじゃないね"と言っていました。

こんばんは👋 と の今日の声優の真似事にはビックリ!?! でした。まさか、 がするのは、 。家でポソポソと言うのはありましたが、今日のは本気でしたね。「一回してみたら大丈夫だった」と。田中先生が自分の事をよく知っているとわかっていて、「勇気を出したら出来たよ」と自分でもビックリの気持ちを田中先生に伝えていましたね。嬉しい日になりました。気持ちを伝えたくて。今日もありがとうございました😊

・ 自分のペースでの学習が定着する

家庭で、母親と一緒に、「ホントにわかる」シリーズのテキストを中心に、毎日2教科ずつ学習を進められている。それが自分のペースになり、気持ちの負担がなく取り組んでいることが嬉しい。右の図は後期の中間評価を文章でまとめて、対象生徒に渡したものの一部である。どの教科もコンスタントに課題に取り組んでいることがわかる。

付箋で各教科担任とのやりとりができていたことも励みになっているようである。教科担任に付箋に書いて質問をしたり、その日に取り組んだことを伝えたり、また、それに対する回答や評価が日々返ってくるのが、対象生徒の自学を支えていると感じる。

しかしながら、今の方法では家庭への負担が大きく、学年が進み学習内容が難しくなると、継続が難しくなることも考えられる。対象生徒は、「自分の中で、頑張れない時もあるから、(勉強に対しての)自信はないけど、今のペースは大丈夫。このペースで勉強していきたい。」と母親に話しており、学習内容の理解や定着のためには、さらに支援の工夫が必要であると考える。

後期中間評価

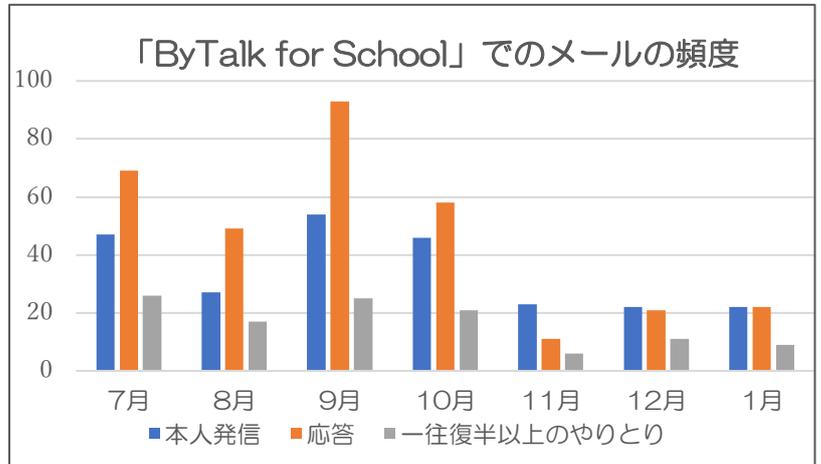
第1学年		組	番	生徒名
教科	学習内容・学習の様子			
国語	ワークの漢字の問題を積極的に解き、漢字に興味を持つことが出来たと思います。一点一画を丁寧に書き、楷書でしっかりとした字を書くことが出来ていました。また、漢字以外の単元の問題にも取り組み、国語に関心を持つことが出来たと思います。書写も丁寧に取り組みました。また毛筆の書写と一緒に出来たらしいなと思っています。少しずつ確実に学力もついてきていると思うので、一緒に頑張っていきたいと思います。			
社会	二種類の問題集も、興味・関心を持って・丁寧に・継続して取り組んでいますね。その結果、地理や歴史に興味が出てきたのではないのでしょうか。それと同時に学力もついてきていると思います。だいじょうぶです、これからもいっしょに頑張っていきたいと思います。			
数学	<u>いつもワークやテキストを自分のペースで取り組んでいるので、素晴らしいと思います。文章題は取り組みにくい様子が見られますが、基本的な正負の計算や方程式の理解ができていて、慣れてきているのがわかります。わからないところがあったら、メモを書いて質問してくださいね。これからもこのペースで学習を続けてください。</u>			
理科	<u>「ホントにわかる理科」のテキストやワークを丁寧に取り組みました。難しいところもあきらめずにチャレンジしましたね。また実験も一緒にできたらしいなと思っています。日常生活に理科で学習したことが利用されていることがあります。見つけてみてください。</u>			
音楽	ふれあいの教室でリズム遊びをしました。3つの違うリズムを3人がそれぞれに受け持って演奏することができました。ほとんど練習をしないでリズムを合わせることができ、リズム感の良さに驚かされました。 ふれあいの教室で、自分からキーボードを弾くこともありました。耳で聴いて覚えているメロディーを鍵盤で音を探しながら弾くことができました。			
美術	文字のレタリングと文字のイメージを表現し、「名前のデザイン」に取り組むことができました。「羽」という文字のレタリングと「羽」のイメージのイラストをバランスよく描くことができました。着彩にも丁寧に取り組みることができました。モダンテックの中の「デカルコマニー」の制作にも取り組みました。色のバランスを考えながら上手に配色し、とてもきれいな蝶の羽の模様を作ることができました。			

・ コミュニケーションの手段を得る

コミュニケーションの手段を得て、自分から、他者や外界とつながりを持ち始めた。

- 「Pepper」を媒体として繋がる
- 「Zoom」のホワイトボードやチャットで繋がる
- 「ByTalk for School」で繋がる

右のグラフは、「ByTalk for School」での7月から1月までのメール（本人発信・応答）の頻度である。6月の終わりに「ByTalk for School」で繋がると、コミュニケーションを取ることが容易になり、それまで「OneNote」や「Zoom」では見られなかった自分発信が多く見られるようになった。その後もずっとコンスタントにメールのやりとりが継続できている。11月以降のコンディションが優れない時期でも、家族以外の人とのコミュニケーションを取り続けられている。



メールでの会話の内容にも変化が見られた。自分発信のメールの内容が、一方的に自分の登校の予定を伝える事務的なものから、こちらの都合を尋ねるような文面に変わってきた。(図1) また、イラストやアニメ、よく聴いている音楽の話など話題も広がり、一往復半以上のやりとりも増え、会話を楽しんでいる様子がわかる。(図2)。話題は対象生徒から提供してくれることも多く、インターネット検索で情報を得ていることが伺われた。

以上のことから、対象生徒は自分流のコミュニケーション手段を獲得し、ゆっくりと少しずつではあるが、他者とのつながりを広げつつあると考える。社交に対し不安の強い対象生徒にとって、慣れない人と直接会話をするのは、かなりの緊張を伴う。即時応答をしなくてもよいメールや、対面しなくてもいいアバターを使っての会話であれば、対象生徒のペースで言葉のキャッチボールが容易にでき、他者とコミュニケーションを取ることのハードルを下げるができる。対象生徒が、自分流のコミュニケーション手段を獲得し、自分から他者に対して話しかけられていることが嬉しい。



(図 1)



(図 2)